

### 令和六年度 定時総会報告

五月二十九日（水）に香川県教育会定時総会を開催いたしました。

松平頼昌会長からは、時代の変化とともに減少傾向にある会員数の問題を真摯に受け止めつつ、香川県教育の充実とその振興を図るために、いかに事業を推進していくか知恵を縛ってまいりたいとの旨のご挨拶がありました。

会長の挨拶に引き続き、会員退職者代表と役員功労者七名の皆様に感謝状と記念品を贈呈いたしました。

この後、ご来賓の香川県知事池田豊人様、香川県教育委員会教育長淀谷圭三郎様からご祝辞を頂きました。

議案決議では、①令和五年度事業報告②令和五年度会計決算報告・会計監査報告③財産管理④令和六年度理事・監事の改選案について承認を受けるとともに、令和六年度事業計画並びに会計予算について報告がありました。

#### 退職者代表

久保 直人

#### 功労者

- 前田 寛文 香川県教育会副会長
- 小西 一郎 香川県教育会常務理事
- 藤本 義則 小豆郡教育会長
- 大西 晏 仲善教育会長
- 合田 等 三・観教育会長
- 後藤 文男 香川県退職校長会長
- 三好 憲昭 香川県教育会監事



前田寛文様におかれましては、令和六年三月十二日にご逝去されました。

### 講演要旨

「かがわ教育の日」のつどい協賛事業

### 令和六年度 教育文化講演会

### 演題『郷土を学ぶ―中野武営を例として―』

講師 法政大学大学院政策科学研究科特任研究員 佐賀 香織 先生

私は幼小中高と人間形成期はすべて高松市で育っており、自分では「さぬきっ子」だと思っている。大学で卒論のテーマとして中野武営の研究を始めた。中野武営という人物を通して自分が育ってきた高松市そして香川県がどのようなところだったのか考え直した。



大学四年生の夏休みに帰省して、図書館で中野武営について尋ねたが担当の人は中野武営の名前すら知らなかった。これは、自分で調べなければいけないと考え、図書館の様々な資料をひっくり返して読み始めた。その後、大学院修士課程一年の時に『香川新報』がマイクロフィルムで残っていることに気づいた。夏休みの帰省時に、『香川新報』を図書館で検索すると大量にマイクロフィルムが保管されていた。市立図書館に毎日通い、朝から閉館までずっとマイクロフィルムを見続けた。毎日、『香川新報』のマイクロフィルムを見ていると、ある日、「あなたはいったい何を見てい

るの」と声をかけてくれた高齢の方がいた。「香川新報」から中野武営の功績を探していると話したところ、その方は市原輝士さんという郷土史家だった。ただ、その数か月後にお亡くなりになったと聞いた。「中野武営の研究をしてくれる人が出てきて良かった」と声を掛けてもらい、この研究を続ける意義があるのだということ初めて感じた。やめられない研究、そして今に至っている。昔の人物のことを学ぶことが子どもたちにとってどのような意義があるのか。実際に中野武営を掘り起こした人間として、郷土に対して尽力した人間を郷土の人たちが自ら学んで正しく理解していくことが必要なのではないか。

中野武営は一八四八（弘化五）年の生まれ、父と同じ高松藩藩吏となり、明治維新後には高松藩兵の士官として鳥羽・伏見の戦いに参戦した。その後、中央政府に出仕し、農商務省の権少書記官として河野敏謙農商務卿（土佐藩出身）の秘書官となったが、一八八一年（明治十四年）の政変で河野とともに下野した。立憲改進黨結党に参加し、愛媛県議



議長となった。予讃分離運動に貢献し、今では「香川県独立の父」と呼ばれるようになった。その後、初の帝国議会衆議院議員に当選し、政治家として活躍した。地元での活動としては、政談演説会や塩田問題の解決があげられる。また、地元香川出身の実業家として、藩主松平家の相談役を務め、香川県育英会の創設にかかわった。また、百十四銀行相談役、高松電気鉄道株式会社役員、高松電灯株式会社役員を務めた。東京では、渋沢栄一の後任として東京株式取引所理事長や東京商業会議所会頭といった経済界の顔となり、日露戦争後の黄禍論、アジア人脅威論の中で、国際問題の平和的解決のため、米國実業団を招聘したり、渋沢栄一を団長とする渡米実業団を推進したりした。

人物研究の面白さはどんな人だったのかと推測ができることである。中野武営の評価にもさまざまなある。知遇や勤務先での関係を使って有利にことを運ばなかったことから「厳格」。官吏としての経験を経て、中立性を維持していたということから、「調整役」。また、中野の人生

というものを見ていくと、たとえば、地域課題や財政問題、産業育成、国際交流、科学技術など、日本社会における「社会課題解決に尽力した人」という評価もできる。

学校で子どもたちと中野武営を取り上げる時にぜひ

### 教育文化講演会の感想並びに「香川県の教育」について

#### 香川県教育委員会教育長 淀谷圭三郎 様

本日の講演は迫力があり、研究の深さを感じた。中野武営はスーパーマンという感じ。第四期香川県教育基本計画を作成し、教育政策を推進しているが課題は多い。不登校児童生徒数は過去最高。教師の環境の変化への支援。

中野武営の話を知ると、改善ではなく変革という発想が必要。子どもたちは人生の中で何度も変革を目の当たりにする。考えたり、批判的に思考したり、深く探究したりすることが大切。今、生きている人たちとの対話だけでなく、講演や読書などを通じた過去の生きた人との対話の機会が増え、子どもたちが未来に向かっていけるような教育政策を肝に銘じていきたい。



#### 公益社団法人香川県教育会会長 松平頼昌 様

中野武営が長く松平家の後見という役割だったと聞き、結果、今この場でお話をさせてもらえるのかなと思って聞いていた。激動の歴史を学ぶことができた。活躍した先輩方の歴史をどう伝えていくのか。中野武営についてあらゆる場で口

にさせていただき、新たな研究者が生まれることを期待する。先生という職に対するネガティブなメッセージがかなり伝わってくることを危惧している。先生が尊い職業であることに胸をはり、自信を持って教育に携われれば素晴らしい教育ができる。今日、佐賀先生のお話を聞いて、あちこちで中野武営の話伝えてもらい、一人でも多く理解してくれる人を増やしてほしい。

